

## 第4学年 算数科学習指導案

Step	A	B	C
場 所	本時公開なし	4年1組	4年2組
授業者	(渡邊良夫)	岡本淳子	吉平勝彦
児童数	5人	19人	20人

### 1. 単元名 「小数のかけ算とわり算」

### 2. 指導の立場

単元について

本単元は、3つの小単元で構成されている。

小数×整数

小数÷整数(あまりのある割り算、割り進みの計算を含む)

小数と倍

そして、本単元の内容は次の通りである(学習指導要領解説 算数編 A 小数の仕組みとその計算)

小数とその加法及び減法についての理解を深めるとともに、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

ア 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。

ウ 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

(内容の取扱い)

内容の「A数と計算」のウについては、整数を整数で割って商が小数になる場合も含めるものとする。

本単元では、被乗数や被除数が小数という計算の原理や方法を理解し、それらの計算を正しくできるようにする。小数×整数や小数÷整数の計算方法では、小数を0.1や0.01を単位にしてみる(単位小数のいくつ分)により、整数の乗法や除法に帰着できると考えることを大切にする。単位小数のいくつ分と考えて整数の計算に帰着することは、1学期に学習した小数のたし算・ひき算の際にも大切にしてきた考え方であるので、その学習を想起させることが、本単元でも単位小数のいくつ分という考え方につながることになる。

計算の手順は、整数の場合と同じである。従って大きな抵抗はないと考える。しかし、小数点をうつ際に、なぜその位置に小数点をうつかが十分に理解できないことが考えられる。そこで、ただ単に「かけられる(わられる)数にそろえて小数点をうつ」だけではなく、どんな単位をもとにして整数化したのかに基づいて決めているのかを考えさせることを意識して指導していく。

また、本単元では確実に計算ができるようにするために、ねらいを技能に重点を置いた時間を設定する。より多くの適用問題をその時間に行い、定着を図るようにしていく。

### 児童の実態と指導援助

単元に入る前にレディネステストを行い、その結果と本人の希望をもとに習熟度別コース(Astep Bstep Cstep)を編成した。レディネステストの結果は以下のようである。(数字は全問正答人数と割合)

問題	Stepと人数		A 5人		B 19人		C 20人	
0.8は0.1をいくつ集めた数か?	5人	100%	18人	95%	19人	95%	19人	95%
0.01を124こ集めた数は?	4人	80%	18人	95%	19人	95%	19人	95%
二位数×二位数(18×47)	2人	40%	13人	68%	19人	95%	19人	95%
二位数÷一位数(96÷4)	2人	40%	15人	79%	19人	95%	19人	95%
三位数÷二位数(630÷27)	1人	20%	12人	63%	14人	70%	14人	70%

と は小数を学習した際に、単元を貫く考え方として学習した「単位小数のいくつ分」をもとにしている。どのステップの児童もほとんどの子が理解できている。間違えている児童は、 を 0.8 とし、 を 0.124 としていた。

のかけ算の筆算は、ステップによって差が大きい。Aステップでは、九九の間違いと十の位のかけ算（部分積の2段目）をずらして記していないミスであった。九九が完璧でない児童には、授業中は九九表を用意して自分で考えて、それを見てもよいようにしている。

のわる数が1けたの筆算、 のわる数が2けたの筆算は、ともに と同じようにステップによる差が大きい。

では、わり算なのにかけ算をやっている児童が2名もいた。思い込みでやってしまうことに注意させるように、声かけが必要である。 では、 の場合のように九九の間違いがあった。さらに、繰り下がりの引き算の間違いが多かった。わる数が2けたの学習後だったせいかな、 において、商を一の位に書いて、わる数との積を十の位と一の位の両方に書き、一度にすませているものや、十の位の引き算を忘れてしまっているものもあった。わり算の筆算の練習を継続する必要がある。

### 3. 主題研との関わり

主体的に学習する子の育成  
～ 基礎・基本の確かな定着を図る算数科学習 ～

学習目標に応じた指導の工夫

本時は被除数が除数よりも大きいので、最初の位に商が立たずに0を書く場合であるが、計算手順は整数の除法と同じであるので取り組みやすい。そこで、本時は計算の定着に重点をおいて「小数÷整数で商が1より小さくなる場合の筆算方法を理解し、計算することができる」という技能を目標にした。

そこで、各コースとも練習問題に取り組む時間をより多くとることができるようにするために、Aコースでは教師とともに自力解決に取り組む。また、B・Cコースでは課題提示までの進め方をパターン化したり、解決の見通しをもたせた上で自力解決に取り組んだりすることで時間短縮を図れるように指導する。

習熟度に応じた指導の工夫

A step	B step	C step
一の位の商が立たないことや百を十に置き換えて次の位をおろして、商に立つ数を考えるということを丸図で考えさせる。筆算の手順や九九表を準備して、自力解決で活用させる。また、筆算の手順に沿って教師と解決を図るようにする。	わる数の方が大きいので、一の位に商が立たないという見通しをもって自力解決に取り組む。個人差があるので、つまづいている児童を呼んで、0を書いたあとの手順について支援して、続きを自力解決できるようにする。また、練習の際に互いに教え合うことを取り入れる。	一の位に商が立たないという見通しをもって自力解決に取り組む。自力解決の早い児童には、解決した手順を話す練習に取り組ませる。また、練習問題では、教師が確かめる問題を決め、その先はプリントに進む形態をとる。

伝え合う中で考えを深める指導の在り方

A step	B step	C step
「わられる数の～よりもわる数の～の方が大きいので商が立ちません。だから、一の位に～を書きます。そして・・・」という話し方を示し、それに沿って計算手順を説明できるように練習する。まとめの前の練習でも、同じように話すことで、数字が変わっても説明できるようにする。	全体交流では、黒板に筆算を書いた児童が解決した手順を説明する。その中で、「まず・次に」など順序を示す接続語や「わられる数・商」などの用語を正しく使っている点を認め、それを受けて全員が同じように筆算の手順を話す。	自力解決の後仲間に説明する練習を自席で行ってからペア交流を行う。ペア交流は隣同士ではなく、早い児童からどんどんペアを作って行う。一回だけでなく、時間内でペアを変えて、できれば複数回にわたって交流する。

#### 4. 単元指導計画 (全17時間)

< 既習の内容との関連と本単元の評価規準 >

【前単元までに身に付けてきた内容】

【本単元の評価規準】

【今後の学習へのつながり】

<p>4年「小数」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の相対的な大きさ、大小比較</li> <li>・小数の加法の計算における交換法則、結合法則</li> </ul> <p>4年「2けたでわる計算」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・除数が2位数の計算原理と筆算、あまりのもめ方</li> </ul>
--

<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数×整数や、小数÷整数の計算の意味や、計算方法を既習の整数の乗法や除法の計算に関連付けて考えようとする。</li> </ul>
--

<p>数学的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数×整数や、小数÷整数の計算のしかたは、小数を0.1を単位にしてみることで、整数の乗法や除法に帰着できると考える。</li> </ul>
--

<p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数に整数をかける乗法の立式や、小数を整数でわる除法の立式ができる。</li> <li>・わり進んで商が小数になる場合の計算を筆算でできる。わり切れない場合は、商を概数で表すことができる。</li> </ul>
---

<p>知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数に整数をかける乗法や、小数を整数でわる除法の意味が分かる。</li> <li>・小数÷整数では、あまりの小数点で被除数の小数点にそろえて打つことが分かる。わり切れない場合は、商を概数で表す方法が分かる。</li> </ul>
---

<p>5年「小数のかけ算」</p>
-------------------

小単元時	小数×整数				
中心問題	1	2	3	4	5
<p>デザートを1皿作るのに、0.2Lの牛乳を使います。6皿作るのに、全部で何Lの牛乳を使うでしょう。</p>	<p>4.2mのひもを3本作ります。ひもは全部で何mいるでしょう。</p>	<p>毎日1.7kmのジョギングをしている人がいます。28日間では何km走ることになるでしょう。</p>	<p>2.65×7の計算のしかたを考えましょう。</p>	<p>練習問題に取り組む。</p>	
<p>評価規準</p> <p>純小数×整数(1位数)の意味や計算のしかたを、整数の乗法と関連づけてとらえようとする。(関心・意欲・態度)</p>	<p>帯小数×整数(1位数)の計算が筆算でできる。(技能)</p>	<p>小数×整数(2位数)の計算が筆算でできる。(技能)</p>	<p>(1/100の小数)×(整数)の計算原理や方法を考え、筆算の計算方法が分かる。(知識・理解)</p>	<p>これまで学習した基礎基本が分かる。(知識・理解)</p>	
<p>授業展開 つまり</p> <p>問題解決型 習熟度 0.2×6の立式ができない。</p>	<p>習得型 習熟度 4.2は、0.1を単位として考えると42こ分になることがわからない。</p>	<p>習得型 習熟度 整数×整数(2位数)のやり方がわからない。</p>	<p>習得型 習熟度 整数(3位数)×整数のやり方がわからない。</p>	<p>習得型 習熟度 0.01のいくつ分かが捉えられない。</p>	
<p>本時の展開</p> <p>1 問題を理解する。 ・整数の場面に置き換えて考える。図をもとにする。</p> <p>2 課題をつかむ。 [小数]×[整数]の答えの見つけ方を考えよう。</p> <p>3 考えをもつ。 A テーブ図と数直線を使って、考えられるようにする。 C 0.1のいくつ分かを考えられるようにする。</p> <p>4 考えを交流する。 ・0.2は0.1の2こ分であることを考える。0.2の6倍は、0.1の2×6こ分であると考える。単位をデシリットルに換算して考える。</p> <p>5 まとめる 0.2×6のような小数のかけ算は、0.1をもとにして考えると、整数のかけ算と同じように計算することができる。</p> <p>6 練習問題に取り組む。P34鉛筆1・2</p> <p>7 振り返る。</p>	<p>1 問題を理解する。 ・整数の場面に置き換えて考える。図をもとに式を立式する。</p> <p>2 課題をつかむ。 [1より大きな小数]×[整数]の計算をしよう。</p> <p>3 考えをもつ。 ・0.1を単位として、整数×整数の筆算の手順で考える。小数点の位置を考える。</p> <p>4 考えを交流する。</p> <p>5 練習問題を通して、習熟を図る。 A 0.1のいくつ分として考え、整数×整数の計算と小数点の位置を確かめて計算できるようにする。 C 小数×整数の筆算の練習問題に取り組ませる。</p> <p>6 まとめる [1より大きな小数]×[整数]の計算は、0.1のいくつ分と考えると、整数と同じように計算すればよい。</p> <p>7 練習問題に取り組む。P35鉛筆3</p> <p>8 振り返る。</p>	<p>1 問題を理解する。 ・整数の場面に置き換えて考える。図をもとに式を立式する。</p> <p>2 課題をつかむ。 [小数]×[2けた]の計算をしよう。</p> <p>3 考えをもつ。 ・0.1を単位として、整数×整数の筆算の手順で考える。小数点の位置を考える。</p> <p>4 考えを交流する。</p> <p>5 練習問題を通して、習熟を図る。 A 0.1のいくつ分として考え、整数×整数の計算と小数点の位置を確かめて計算できるようにする。 C 小数×整数の筆算の練習問題に取り組ませる。</p> <p>6 まとめる [小数]×[2けた]の計算も、0.1をもとにして考え、整数のかけ算と同じように計算すればよい。</p> <p>7 練習問題に取り組む。P36鉛筆4・5</p> <p>8 振り返る。</p>	<p>1 問題を理解する。 ・1/100の小数も整数の場面に置き換えて考える。</p> <p>2 課題をつかむ。 [1/100の小数]×整数の計算をしよう。</p> <p>3 考えをもつ。 ・2.65は、0.01の265こ分であり、265×7=1855で、0.01が1855こ分なので、18.55になる。</p> <p>4 考えを交流する。</p> <p>5 まとめる [1/100の小数]×[整数]は、0.01のいくつ分と考えると計算すればよい。</p> <p>6 練習問題に取り組む。P37鉛筆6・7 A 0.1のいくつ分として考え、整数×整数の計算と、小数点の位置を確かめて計算できるようにする。 C 小数×整数の筆算の練習問題に取り組むことができるようにする。</p> <p>7 振り返る。</p>	<p>1 練習問題に取り組む。 P38練習1</p> <p>2 課題をつかむ 小数のかけ算の基本を確かめよう。</p> <p>3 まとめる 小数のかけ算の基本が分かる。</p>	
<p>身に付けさせたい表現</p> <p>1つ分の大きさ×いくつ分が全体の大きさになります。</p>	<p>整数の筆算と同じように計算すればよいです。</p>	<p>1.7は0.1が17こ分です。</p>	<p>2.65は、0.01の265こ分です。</p>		
<p>既習学習の活用</p> <p>数直線を利用する。</p>	<p>数直線を利用する。</p>	<p>数直線を利用する。</p>	<p>0.1を単位として計算すること。</p>	<p>小数(1/100、1/1000の位)×整数の計算原理、筆算のしかた。</p>	

小単元 時	小数÷整数				あまりのあるわり算
	6	7	8(本時)	9	10
中心問題	7.2Lの牛乳を,3つの容器に等分します。1つ分は何Lでしょう。	7.62÷6の筆算のしかたを考えましょう。	3.78mのテープを7等分します。1本分の長さは何mでしょう。	52.9÷23の筆算のしかたを考えましょう。	21.4mのテープを4mずつに分けます。4mのテープは何本できて,何mあまるでしょう。
評価規準	帯小数÷整数(1位数)の計算のしかたは,小数を0.1を単位にしてみるにより,整数の除法に帰着できる。(数学的な考え方)	帯小数÷整数(1位数)の計算が筆算できる。(技能)	はじめの位に商が立たない時は,0を立てわり進んで正しく計算することができる。(技能)	(小数)÷(2けたの整数)の筆算を正しく計算することができる。(技能)	あまりのある小数の筆算のしかたは,0.1を単位にしてみるにより,整数の除法に帰着できる。(数学的な考え方)
授業展開 つまずき	習熟度 整数(2位数)÷整数(1位数)のやり方がわからない。	習得型 習熟度 整数(3位数)÷整数(1位数)のやり方がわからない。	習得型 習熟度 どこに商が立つのか分からない。	習得型 習熟度 小数点の位置が分からない。	問題解決型 習熟度 わられる数の位で小数点をつけることができない。
本時の展開	1 問題を理解する。 小数÷整数の計算を立式することができる。 2 課題をつかむ。 〔(小数)÷(整数)の計算のしかたを考えよう。〕 3 考えをもつ。 Aテープ図と数直線を使って,考え計算させる。 C小数÷整数の計算を0.1のいくつ分かといふ考え方で計算させる。 4 考えを交流する。 5 まとめる。 〔(小数)÷(整数)を計算するには,0.1のいくつ分で考えると,整数のわり算と同じように計算することができる。〕 6 練習問題に取り組む。P40鉛筆1 7 振り返る	1 問題を理解する。 1/100の小数も整数の場面に置き換えて考える。 2 課題をつかむ。 〔(1/100までの小数)÷(整数)の筆算のしかたを考えよう。〕 3 考えをもつ。 0.1のいくつ分として考え,整数÷整数の計算と,小数点の位置を確かめて計算させる。 4 考えを交流する。 5 まとめる。 (1/100までの小数)÷(整数)の筆算をするには,上の位から順番にわり進んでいけばよい。 6 練習問題に取り組む。P41鉛筆2 A 0.1のいくつ分かを考え整数÷整数の計算と小数点の位置を確かめながら計算させる。 C 計算練習問題に取り組ませる。 7 振り返る	1 問題を理解する。 ・はじめの位に商が立たないことが分かる。 2 課題をつかむ。 〔1の位に商が立たないときの小数÷整数の計算をしよう。〕 3 考えをもつ。 あまりの表し方を考える。0.1のいくつ分かを考えた計算なので,あまりも0.1のいくつ分かを考える。 4 考えを交流する。 5 まとめる。 〔1の位に商が立たないときの小数÷整数は,1の位に0を書いて計算すればよい。〕 6 練習問題の取り組み。P42鉛筆3 A 小数点の位置を確かめながら計算させる。 C わり進みの計算練習問題に取り組ませる。 7 振り返る	1 問題を理解する。 ・2けたの整数でわる筆算の立式が分かる。 2 課題をつかむ。 〔(小数)÷(2けたの整数)の筆算のしかたを知ろう。〕 3 考えをもつ。 ・0.1のいくつ分と考えたら計算できる。小数点の位置を確認する,さらにわり進んでいく。 4 考えを交流する。 5 まとめる。 〔(小数)÷(2けたの整数)の筆算は,0.1のいくつ分と考えて整数と同じようにわり進んでいけばよい。〕 6 練習問題に取り組む。P42鉛筆4 A 小数点の位置を確かめながら計算させる。 C わり進みの計算練習問題に取り組ませる。 7 振り返る	1 問題を理解する。 ・あまりの小数点の打ち方が分かる 2 課題をつかむ。 〔あまりのある小数の筆算のしかたを考えよう。〕 3 考えをもつ。 ・あまりの表し方を考える。0.1のいくつ分かを考えた計算なので,あまりも0.1のいくつ分かを考える。あまりの小数点の位置を確認する。 A 小数点の位置を確認しながら計算させる。 C あまりのある計算の練習問題に取り組ませる。 4 考えを交流する。 5 まとめる。 〔あまりのある小数の筆算のあまりは,わられる数の位で小数点をつけられればよい。〕 6 練習問題に取り組む。P44鉛筆1・2 7 振り返る
身に付けさせたい表現	7.2は,0.1の72こ分だから,7.2÷3=2.4,0.1の2.4こ分だから2.4になりませぬ	7.62は,0.01が762こ分です。	はじめの位に商が立たないときは,0をつける。	0.1を単位にして計算すればよい。	あまりの1.4は,0.1が14こ分なのであまりは,1.4です。
既習学習の活用	テープ図と数直線を使う。	0.1を単位として計算すること。	わり算の筆算では,どこに商が立つのか復習する。	2けたでわる筆算の計算のしかたを復習する。	あまりは,0.1をもとにして考える。

小単元 時	わり進みの計算			小数と倍	計算の工夫	
	11	12	13	14	15	16
中心問題	21.4mのテープを4等分します。1つ分は何mになるでしょう。	10kgのお米を17のグループで等分します。1グループ分は約何kgになるでしょう。商を四捨五入して、1/10の位まで求めましょう。	練習問題に取り組む。	赤、緑、青のテープの長さは、それぞれ黄色いテープの長さの何倍でしょう。	$78 \times 4 = 312$ をもとにして、次の積を求めましょう。 $780 \times 4$ 、 $7.8 \times 4$ など	基本の確かめをする。
評価規準	わり切れない筆算を、わり切れるまでわり進み、正しく計算できる。(技能)	必要とする位まででわり切れない場合に、商を四捨五入して概数で表すことができる。(知識・理解)	これまで学習した基礎基本の計算が分かる。(技能)	整数倍の意味をもとに、小数倍の意味を考える。(数学的な考え方)	整数の積や商を用いて、正しく計算することができる。(技能)	これまでの基礎基本の計算が分かる。(知識・理解)
授業展開 つまずき	習得型 習熟度 わり切れるまでわり進めない。	習得型 習熟度 四捨五入して1/10の位にするには、どの位までわればよいかわからない。	習熟度 わり切れるまでわり進めない。	問題解決型 習熟度 もとなるテープの色が分からない。	習得型 習熟度 積や商をもとにして考えることができない。	習熟度 問題の意味が分からない。
本時の展開	1 問題を理解する。 ・わり切れるまでわり進むことが分かる。 2 課題をつかむ。 わり切れない筆算をしよう。 3 考えをもつ。 4 考えを交流する。 5 問題2を提示する。 $2 \div 8$ の筆算のしかたを説明しましょう。 6 まとめる。 わり切れない筆算のしかたは、わり切れるまでわり進めばよい。 7 練習問題に取り組む。P45鉛筆1 A 小数点の位置を確かめながら、計算させるようにする。 C わり進みの計算練習問題に取り組ませる。 8 振り返る。	1 問題を理解する。 ・必要とする位が分かる。 2 課題をつかむ。 必要とする位までが分かり、四捨五入して概数を表そう。 3 考えをもつ。 4 考えを交流する。 5 まとめる。 四捨五入して1/10の位までにするには、1/100の位まで求めて四捨五入すればよい。 6 練習問題に取り組む。P46鉛筆3 A 小数点の位置を確かめながら、計算させるようにする。 C わり進みの計算練習問題に取り組ませる。 7 振り返る。	1 問題を理解する。 問題が分かり、練習問題に取り組む。P47練習 2 課題をつかむ。 (小数)÷(整数)の問題を速く正確にできるようにする。 5 まとめる。 整数のわり算と同じように計算する。	1 問題を理解する。 ・もとなるテープの色が分かる。 2 課題をつかむ。 テープ図や数直線を使って、何倍になるかを考えよう。 3 考えをもつ。 4 考えを交流する。 A テープ図や数直線をもとに考え、小数倍も整数倍の場合と同じように存在することを確認させるようにする。 C 何倍かを表すときに、数量関係が明らかにできるようにする。 5 まとめる。 1.5倍や0.5倍のように、何倍かを表す時に小数でも表すことができる。 6 練習問題に取り組む。P49鉛筆1 7 振り返る。	1 問題を理解する。 ・積や商をもとにして、計算することが分かる。 2 課題をつかむ。 整数の積を使って、工夫して計算しよう。 3 考えをもつ。 4 考えを交流する。 位を考えれば、簡単に答えを求めることができる。 5 問題2を提示する。 $81 \div 3 = 27$ をもとにして、右の商を求めましょう。 6 まとめる。 小数のかけ算やわり算の計算は、整数の積や商をもとにして計算すればよい。 7 補充問題に取り組む。P50 A 基本的な問題に取り組ませる。 C 発展的な問題に取り組ませる。 8 振り返る。	1 練習問題に取り組む。P51きほんのたしかめ 2 課題をつかむ。 小数のかけ算とわり算の基本を確かめよう。 3 まとめる。 小数のかけ算とわり算の基本的な計算が速く正確にできる。
	身に付けさせたい 表現	$0.2\text{m}$ は、 $20\text{cm}$ であることをもとにして考えると、 $0.2$ は $0.01$ が $20$ こ分です。	$1/10$ の位までを求めるときは、 $1/100$ のくらいで四捨五入します。		黄色のテープをもとにして考えます。	$10$ 倍や $1/10$ になったときの積や商は、小数点の位置が変わってきます。
既習学習 の活用	1けたでわるわり算の筆算のやり方を復習する。	四捨五入のやり方を想起する。		テープ図を使う。整数倍の基礎を振り返る。	整数倍の基礎を振り返る。	

5. 本時について (8 / 17)

(1) 本時の目標 小数÷整数で商が1より小さくなる場合の筆算方法を理解し、計算することができる。

(2) 本時の展開

過程	ねらい	A step	B step	C step
つかむ	本時の学習の内容をつかむことができる。	1. 問題を理解する。 ・ 問題の内容をつかむ。(分かっていること、求めることを明らかにする。) [問題] 3.78mのリボンを7等分しようと思います。1本分の長さは何mになるでしょう。 ・ 理由を明確にして立式した上で、前時との違いを明らかにする(除数>被除数のため、一の位に商が立たない)。 2. 課題をつかむ。 [課題] 一の位に商が立たない時の小数÷整数の計算をしよう。		
考える	課題解決の見当をつけることができる。	3. 教師とともに課題を解決する。 解決の見当をつける 筆算の手順の最初は「たてる」 わる数の7の方が大きいので3÷7ができない 商が立たない? 立てなければいけない 0を書けばよい 個人追究 教師とともにやってみる。 ・ 一の位の3÷7ができないので0を書く 3×0=0なのであまりの3と0.7を合わせた3.7を7でわる 3.7÷7なので3.7の小数点の位置にそろえて小数点をうつ 37÷7をやって5を立てる… →(教師が黒板で書くのに合わせて進める) たてる かける ひく おろすの手順や前時の問題の筆算を掲示し、整数のわり算と同じように計算できるようにする。 4. 学んだことを説明する。(話し方のマニュアルを示す。) わられる数の3よりもわる数の7の方が大きいので、まず、一の位に0を書きます。そして、わられる数の小数点に合わせて商にも小数点をうちます。次に、37÷7を考えると5が立ちます。かけると35なので、引き算をすると2になります。それから、8をおろします。だから、28÷7になります。4が立ってわり切れます。答えは、0.54になります。(うまく説明できないところは、教師の援助を得ながら説明できるようにする。)	3. 課題解決に向けて自分でやってみる。 解決の見当をつける 3÷7はできない(一の位に商が立たない) 商を立てないとできない 一の位に0を書けばよい 個人追究 ・ 商の一の位に0を書き、小数点をうって筆算をつける。 ・ たてる かける ひく おろすの手順を想起して筆算に取り組む。 →(3分間、解法が見出せないでいる児童を集め、前時の筆算を想起させることで解決の見通しをもつことができるようにする) 37÷7に着目できなかったり、小数点に戸惑っていること等でつまづいている児童を支援して、続きを自力解決させる。	3. 課題解決に向けて自分でやってみる。 解決の見当をつける 一の位に商が立たないので、一の位に0を書けば前時と同じように計算することができそうだ。 個人追究 ・ 商の一の位に0を書く。3.7÷7なのでわられる数の小数点に合わせて小数点をうつ →(3分間、解法が見出せないでいる児童を集め、0を立てたあとの手順のヒントを与える) →(解決した手順を仲間に説明できるように話す練習をすることを声かける)
深める	既習の考えを生かして問題を解決することができる。	5. 確かめる。 4.32÷8 P42鉛筆問題の 6. まとめる。 [まとめ] 一の位に商が立たない時の小数÷整数は、一の位に0を書き小数点をうって計算すればよい。	4. 考えを交流する。 全体交流 3÷7ができないので一の位に0を書きます。そして、わられる数の小数点に合わせて小数点をうちます。37÷7になるので、5をたてます。7×5=35であまりが2です。それから、百分の一の位の8をおろします。28÷7なので4を立てて計算します。だから、答えは0.54になります。 5. 確かめる。 7.2÷9 4.32÷8 P42鉛筆問題の 6. まとめる。	4. 考えを交流する。 ペア交流 3÷7で一の位に商が立たないので0を書きます。3.7÷7になるので、わられる数の位置にそろえて小数点をうちます。 3.7は0.1が37こなので37÷7と考 7) $\begin{array}{r} 0.54 \\ 7 \overline{) 3.78} \\ \underline{35} \phantom{0} \\ 28 \\ \underline{28} \\ 0 \end{array}$ 5. 確かめる。 7.2÷9 4.32÷8 6.08÷8 P42鉛筆問題の 6. まとめる。
まとめる	練習問題を解決することができる。 本時の学習を振り返ることができる。	7. 練習問題に取り組む。 7.2÷9 6.08÷8 0.63÷9 P42鉛筆問題 8. 振り返る。(自己評価する)	7. 練習問題に取り組む。 6.08÷8 0.63÷9 P42鉛筆問題 早くできた児童は教科書P137の練習問題に進む。 8. 振り返る。(自己評価する)	7. 練習問題に取り組む。 0.63÷9 P42鉛筆問題 早くできた児童はプリント問題に進む。 8. 振り返る。(自己評価する)

評価規準 【技能】 小数÷整数で商が1より小さくなる場合、1の位に0を書いて小数点をうち、正しく筆算で計算している。

\*人権同和教育の観点:筆算の仕方を考える際に、既習内容をもとにして一の位に0を書き、小数点をうって計算するように、筋道立てて考えることができる。(認識力)